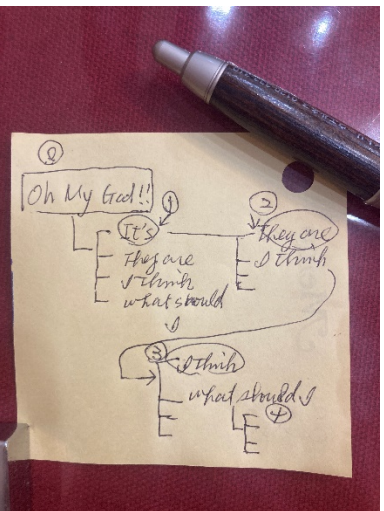


2021/5/20

オマケの英語教室

(中身が最初 Contents is the first) 書庫版



「スキな球が来るのを待っていたら、試合は終わってしまいます」

といったのは、イチロー。

ですが、同様に

「覚えている文例、イディオムが出てくるのを待っていたら、会話は終わってしまいます」
とも言えそうです。

要するに試合も会話も生き物です。受け身で待っていたら終わってしまいますので、こちらから能動的に仕掛けていかななくてはならないようです。

では、どの様にすれば良いのか？勿論此処での主題は英語なので英会話の場合に、です。

話は変わりますが、

人間とは不思議なもので、咄嗟に思い浮かぶ (inspired) 語句やフレーズというものがあります。

それは個性に属する問題なので千差万別十人十色

人によって全く異なる訳です。

或いは又、その直前に何をしたか？何に興味を抱いたか？によっても、その日その時に

「咄嗟に」思い浮かぶ語句やフレーズは異なってきます。

なので、その時一番の最初に思い浮かんだfreshな語句を、まず口にしてみるのが第一です。

無論、会話の流れに沿ったものについてです。

例えば、

当店では、インドで変異型コロナウイルスが流行っていて大事になっている、という話が時々出ますが、それを聞いて、

「そりゃあ、大変だ」

と咄嗟に思ったら「大変」と英語で何て言うの？等とは考えずに、知っている単語、例えば自分の場合であれば

「Oh My God」

と取りあえず言ってしまう訳です。

因みに oh my god は「なってこった」位の感じででしょうか。「大変」の just 翻訳とは違いますが、まあ、問題ないでしょう。

で、次は、その中身を伝える段になったとして、ここからは、それに続きやすい文例のათჲを幾つか持っているの良いかもしれません。

It's,

I think,

They are,

What should I,

I can

We have

We no have

等です。

そうして、取りあえず、それに続く文章をくつつけて、詰まったら、それに続けられる次の文例や語句の選択を行って、ドンドンスイッチングしながら、先に進めるものを使って切り抜けていく。

ですが、何よりも大切なのは、まずは何かを口にする。その後、それに続けられる文例を、その場その場で咄嗟にチョイスしながら続けていくという、将にイチローの、手元に来た球筋を0.5秒で読み切り、打ち返す、というのと同じです。

そうしてそれを可能にしているのは、イチローさん曰く

「特別な方法なんて在りません。毎日毎日、練習し続けて、場数を踏む訓練をする以外にはありませんから」

の「訓練」です。

考えて見れば我々に一番足りないのが、この「訓練」

何故足りなくのかと言えば、失敗を怖れる余り「経験範囲と経験回数」が大幅に足りなくなつて（乏しくなつて）しまつているからでしょう。

その為、経験範囲や経験回数に正比例している「話す」又は「話したい内容」のストックが少ないからではないでしょうか。

語学の上達は、まず話したい中身がある事が何よりも重要だ、と思っております。

話したい中身さえあれば、恥はそれほど気にならないのです。